2020 年度 春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

１．授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016 年度にグローバル 30 人間科学コース（以下、G30）、2017 年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。講義科目以外の科目については KOAN 上での回答を行っていたが、2019 年度春夏学期からは、全科目を対象科目に、マークシート用紙による回答形式を採用している。2020 年度春夏学期は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全科目オンラインでの実施となった。実施期間は以下の通りである。

2020 年度春夏学期アンケート回答期間：2020 年 7 月 7 日～9 月 14 日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、42.3%であった。形式変更に伴う回収率の向上は秋冬学期以降の課題である。

2020 年度春夏学期授業改善アンケート　講義科目
対象科目数･回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	13	470
	行動系科目	31	152
	社会人間系科目	22	85
	教育系科目	26	193
	共生系科目	21	110
大学院科目	共通科目	16	90
	その他	112	149
G30 科目		25	89
計		266	1338

回収数 1338／受講登録者数 3163＝回収率 42.3%

※1　基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。
　2　受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期より､授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提

出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

２．授業改善アンケートの結果

前回まで、全科目をアンケート実施対象科目とし、講義科目についてはマークシート方式を、講義以外の科目（演習、実習、研究）についてはKOAN上にて回答する方式を採用していたが、KOAN上での回答率の低さを改善すべく、2019年度春夏学期よりすべてマークシート方式に変更した。2020年度春夏学期は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全授業がオンライン化したことをうけ、授業改善アンケートをWEB形式に切り替えた。授業改善アンケートの回収率は43.3%となった。前年度以前は70%台で推移していた回収率だが、未曽有の変化への対応に追われた今回の調査にかんしては前年度以前の記録と比較しえない点に留意する必要がある。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が4.37（2019年度春夏学期4.24）であり、前年度よりも高い値となった。未曽有の事態により授業形態がZOOMやCLEなどオンラインに切り替わったにもかかわらず、こうした結果となったのは、教員・学生双方の努力によるものであると考えられる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問１の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が95.1%となり、2019年度春夏学期87.2%よりもさらに7.9ポイント上昇しており高い値となった。また、問２の「この授業の予習・復習にあてた１週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは12.3%となり、これまでも改善傾向にあったが、前年度の29.5%%から大幅な改善をみせた。この結果は、授業のオンライン化による課題提出状況の管理等と関連させて理解すべきものであると考えられる。

また、問３「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答は68.8%と前年度並みであった（2019年度春夏学期：69.7%）。オンライン化により教員・学生双方におおきな負担が生じた今学期にあっても、授業で扱う題材選定の適切さや、授業の進行形式の改善がなされており、そのことが問10の満足度の向上に寄与しているといえる。

以下より、2020年度春夏学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

・各学系によって１科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

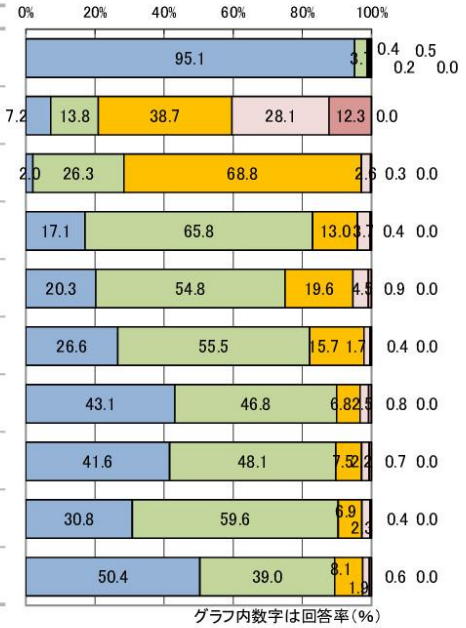
授業改善アンケート

大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
2020年度前期

全体集計

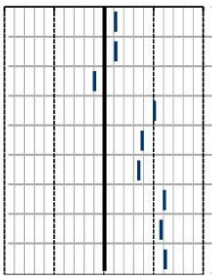
履修者数	3163
回答数	1338
回答率	42.3%

番号	内容	全体平均
1	この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？	4.93
2	この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？	2.75
3	授業内容の難易度はどうでしたか？	3.27
4	授業内容はよく理解できましたか？	3.96
5	授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？	3.89
6	授業はシラバスに沿って展開されましたか？	4.06
7	授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？	4.29
8	授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？	4.28
9	この授業で学問的知識が身についたと思いますか？	4.18
10	この授業は全体として良い授業だったと思いますか？	4.37



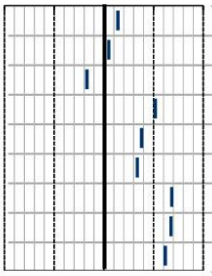
グラフ内数字は回答率（%）

【Q9との相関】



		相関係数
Q1	出席率	0.118
Q2	予習・復習の時間	0.121
Q3	授業の難易度	−0.094
Q4	授業の理解度	0.508
Q5	シラバスの内容	0.385
Q6	シラバスとの整合	0.352
Q7	興味・関心	0.610
Q8	授業方法と資料	0.577
Q10	総合評価	0.618

【Q10との相関】

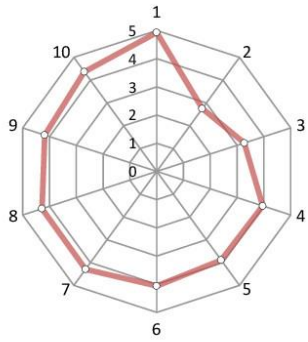


		相関係数
Q1	出席率	0.142
Q2	予習・復習の時間	0.049
Q3	授業の難易度	−0.171
Q4	授業の理解度	0.517
Q5	シラバスの内容	0.380
Q6	シラバスとの整合	0.336
Q7	興味・関心	0.683
Q8	授業方法と資料	0.676
Q9	学問的知識	0.618

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	−
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「−」は計算不能を示します。（例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど）

【質問別得点】



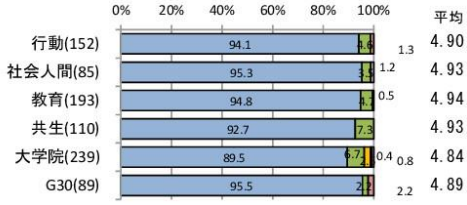
大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート　2020年度前期

学系別集計【全体】

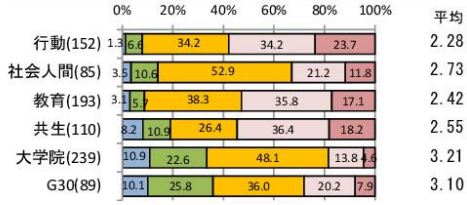
※グラフ内数字は回答率（%）

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	－
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

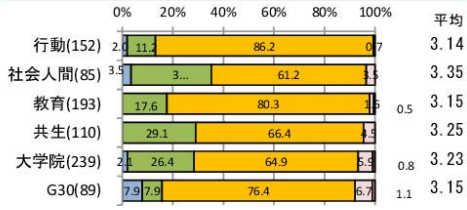
1．この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



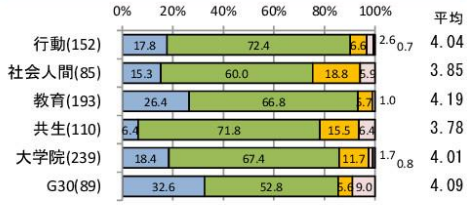
2．この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



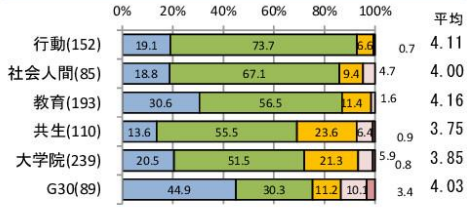
3．授業内容の難易度はどうでしたか？



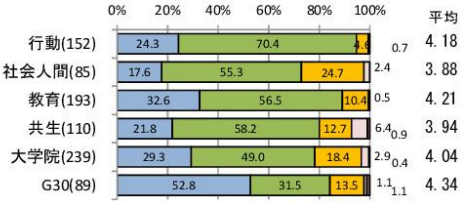
4．授業内容はよく理解できましたか？



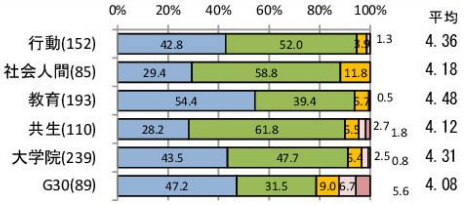
5．授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の 内容を知るのに役立ちましたか？



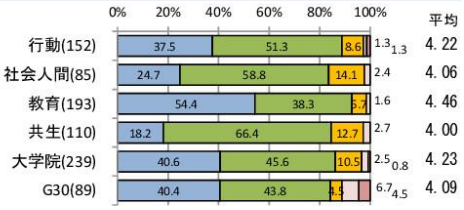
6．授業はシラバスに沿って展開されましたか？



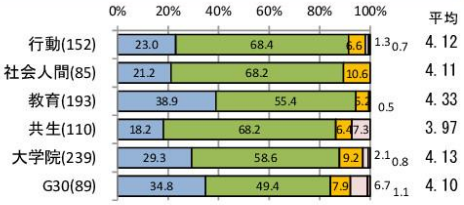
7．授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



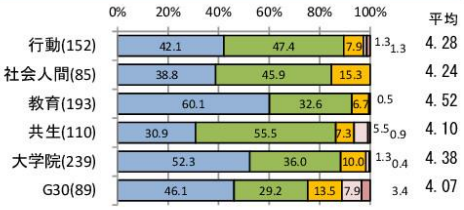
8．授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



9．この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



10．この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ)。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 266 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 32 科目であり、平均値 4.37 を上回ったのは 16 科目であった。

2020 年度春夏学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	臨床教育学実験実習 II	12	4.83
2	人間科学概論	150	4.73
3	教育工学Ⅱ	42	4.64
4	集団力学	16	4.63
5	現代人間学演習 II	13	4.54
6	教育・学校心理学	23	4.52
7	人文学と人間科学	98	4.51
8	比較福祉論Ⅱ	12	4.50
9	臨床教育学実験実習Ⅱ（心理演習）	11	4.45
10	健康・医療心理学	54	4.43

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	メディアの課題特講	24	4.79
2	哲学と質的研究特講	11	4.73
3	教育工学特講 II	10	4.70
4	高等教育論特講 I	26	4.62
5	共生社会論特講 III	13	4.54

3. 担当教員からのコメント

次ページからは、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧を掲載する。2020 年度春夏学期は 31 名より回答が得られた。

大阪大学人間科学部・人間科学研究科

２０２０年度春夏学期　授業改善アンケート実施後教員コメント

（敬称略・順不同）

教員名：入戸野　宏	自然科学と人間科学

コメント

⇒　初年次必修のオムニバス授業であり，今年度はすべての授業をオンラインで実施した。履修者の全員がアンケートに回答した。総合評価「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」は 4.36（全体平均 4.37）であり，昨年度の 3.78（全体平均 4.24）に比べて向上した。これは昨年度の授業改善アンケートの結果を受けて，レポートの提出回数を 3 回から 2 回に減らしたり，CLE を活用して授業資料を常に閲覧可能にしたりといった工夫を行った成果であるといえる。「授業方法および資料は，十分に工夫・準備されていると思いますか？」に対する評価は 4.31（全体平均 4.28）と高く，昨年度の 3.63（全体平均 4.12）を大きく上回った。来年度以降も CLE の利用は継続していきたい。

なお，学部専門「認知心理生理学（神経・生理心理学）」と大学院「基礎心理学特講Ⅰ」の講義科目については，回答者が 5 名に満たなかった。期末テストやレポートに書かれた感想からは，オンラインであってもそれなりの授業が実施できたという実感はあるが，次回は授業改善アンケートへの回答をより積極的に促したい。

教員名：西森　年寿	教育工学特別演習Ⅰ・教育工学特定演習Ⅰ・教育工学特講Ⅱ・臨床教育学実験実習 Ⅱ・教育工学演習Ⅰ・教育工学Ⅱ

コメント

⇒　学部講義である、教育工学Ⅱについては、今期はオンライン授業となったわけですが、ほとんどの評価項目で好ましい方向へと数値が動きました。ただし、（これは結構驚きですが）回答率が大幅に落ちていますし、また、もちろんこのような状況下で、学生のみなさんの評価の基準も通常とは異なるとは思います。しかし、それだけで説明できるのか。このあたりは、また、今回やってみた授業のやり方を対面授業でも取り入れたりしながら、探っていきたいと思います。演習や実験実習、大学院生向けの授業、これは、おもに、指導している学生が履修しているものですが、大きい問題はないのかなと思ってみています。匿名で意見が言える機会ですので、自由記述欄など活用してくれたら幸いです。

教員名：野村　晴夫	臨床心理面接特講Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)

コメント

⇒　回収率 40%ですが，おおむね及第点を頂き，今後，必要な予復習の充実など，さらなる改善に努めます。

教員名：野村　晴夫	公認心理師の職責

コメント

⇒　回収率 13.9%ですが，おおむね及第点を頂き，今後，担当する複数教員間の連携など，さらなる改善に努めます。

教員名：吉川　徹	人間科学基礎実習

コメント

⇒　令和 2 年度春夏学期では希少な対面実習！　とても高い評価を得ました。「追い風参考記録」です。

教員名：藤岡　淳子	人格心理学特講・司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
コメント ⇒　オンラインでの実施のためか回答数が少なく、限界が感じられた。回答数を増やす工夫が必要である。	

教員名：安元　佐織	人間科学特殊講義 III
コメント ⇒　はじめてのオンライン授業だったため、講義を進めるペースや課題の分量など、受講生の様子を伺いながら進めました。受講生数が少なかったこともあり、対面で行う講義と同じくらい discussion ができ、私自身としては楽しく充実した講義ができたように感じました。講義を盛り上げてくれた受講生に感謝しています。	

教員名：老松　克博	臨床心理学演習Ｉ・臨床心理学特定演習Ｉ・臨床心理学特別演習Ｉ・ 臨床心理査定演習Ｉ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
コメント ⇒　今年度前期の授業は，新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止対策をふまえてだったため，メディア授業にしたり対面授業にしたりと，教員側にとってもはじめての経験でした。試行錯誤を繰り返しながら，正解の見つからないままになってしまった部分もありました。受講生の皆さんにとっては，例年より理解しやすくなったところや時間の融通が利いたところがあったらしい反面，理解しにくかったとか時間に縛られたなどといった経験でもあったようです。授業の内容の質を落とすことなく，メディア授業の利点を最大限に活かすのは，まことに難しいことですが，非常に臨床的な状況だったともいえます。個々の科目の特性に合わせて，今回のご意見を後期以降にできるだけ反映させていきたいと考えています。	

教員名： 綿村　英一郎	集団力学
コメント ⇒　試行錯誤のオンライン授業でしたが，ご理解・ご協力くださりありがとうございました（本当に！）。チャット実習は高く評価いただけたようで何よりです。今後も授業改善に努めてまいります。	

教員名：篠原　一光	応用認知心理学特講Ｉ・応用認知心理学演習Ｉ・人間行動学実験実習 II
コメント ⇒　いずれもオンラインで実施したが、特段の問題の指摘はなく、例年とあまり違いはなかった。今後も授業の実施形態にかかわらず、受講生にとって有用な講義となるよう工夫を行っていきたい。	

教員名：藤川　信夫	臨床教育学実験実習 II
コメント ⇒　項目２のポイントが相対的に低いが、今後本格的に卒業論文執筆に向けた指導に入るため、おのずとポイントが高くなると想定しています。	

教員名：村上　靖彦	人文学と人間科学・現代人間学実験実習Ⅱ・哲学と質的研究特講・現代人間学演習 II

コメント
⇒　今回はとくに１年生の必修科目である『人文学と人間科学』でコロナウィルスの影響が大きく出てしまいました。ゲストの数が減ってしまったのは残念ですし、重たい内容をオンラインで続けてしまったことの反省はあります。もし来年度もオンラインが続くようでしたらその点への配慮が必要だと感じました。

その他の授業についてはオンラインへの対応はまずまずうまくいったかと思いますが、実験実習については今後適宜内容の改善をしていきたいと考えています。

教員名：岡部　美香	教育人間学演習　I・教育哲学特講

コメント
⇒　ご意見をいただき、ありがとうございました。時間をかけて丁寧に議論ができてよかったとのこと、うれしく拝読しました。急にオンラインに切り替えたのでうまくできるか心配なところもありましたが、この前期の授業で、オンライン授業の方法やペースをつかむことができたので、今後も、それを生かしていきたいと思います。

教員名： 臼井　伸之介 中井　宏	安全行動学研究分野に関する以下の科目

コメント
⇒
「安全行動学演習Ⅰ」
　授業内容の理解が低かったことから、発表者にはレジュメの他に用語説明などの用意を求めると同時に、単純な疑問についても受講者間で相互に確認し合えるような授業進行を考えたい。

「人間行動学実験実習Ⅱ」
　実習からレポート提出までの期間が間延びしたテーマでは、レポートの出来が芳しくなかったことから、学生負担が極度に大きくならない範囲で、提出までの期間を修正する。

「産業・組織心理学」
　大半の項目で高い評価だった反面、授業外での学習時間には繋がっていないので、次年度以降は、学生らが働くアルバイトやサークル等の場面と講義内容の結びつきについて文献や web 資料を基にレポートを課すなどを検討したい。

「心理学実験」
　難易度が高かったようだが、テーマによっても異なると考えられる。また今年度は、実習科目でありながらオンラインでの実施となり、十分な教育効果でなかった可能性がある。次年度以降は、感染対策を十分に講じた上で、可能な限り対面での授業としたい。また、レポート添削方法（特にフィードバックを与えての書き直し）については、最初のレポートや２本目のレポートを手厚くし、後半のテーマでは自力で完成度の高いレポートを完成させられるよう、TA・TF の配分を工夫したい。

教員名：渥美　公秀	共生行動論特講Ⅰ （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）

コメント

⇒　アンケートに回答してくださった受講生が極端に少なかった(1 名)ので結果をもとにコメントすることは控えます。

　この講義は、公認心理師科目「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」でもあり、できるだけ広く実践的な事例を交えて講義しました。ただし、広さと深さは対応しないところもあり、実践を支える理論について共生学系の諸議論になじみのない受講生により丁寧に説明すべきだと感じる事例もありました。来年度は、こうした気づきを踏まえて、バランスをとることを再考して講義に臨みたいと思います。

教員名：脇阪　紀行	授業アンケート実施科目：メディアの課題特講

コメント

⇒　コロナ感染が拡大する中で行われた遠隔授業は、初めての経験だったが、普段にも増して全力で授業を行った。その結果、私の担当科目については第 3 項目（授業内容の難易度）以外の残りの 9 項目で全体平均を上回る得点を得られたことにほっとしている。９０分の講義を意義あるものにするために、CLE を使ったパワポなど授業資料を事前配布し、リアクションペーパーに代わる CLE ブログへの投稿を求め、投稿にはすべて回答を行った。また、コロナ感染にかかわる話題を授業に取り込み、ブレイクアウトセッションを行うことで、受講生により積極的な関心を持ってもらえたのだろう。

　他方、授業内容の難易度に関する第 3 項目で、「適切」との回答が 8 割以上あったものの、「やや易しい」との回答があったことや、予習復習にあてた時間を尋ねた第 2 項目で 1・5 時間未満との回答が 8 割を越えており、受講生の予習復習の負担を増やし、学問的水準を上げる工夫をした方がよかったかと反省している。秋冬学期の同種の授業では、さっそく、参考資料の配布量を増やしている。

　学系別集計【講義】を見ると、出席率がどの学系も極めて高かったのは、むしろ遠隔授業を行った結果だろう。また、大学院生に対する授業の各項目の得点が、他の学系より、比較的高い得点を得ているような印象を持つ。やはり少人数教育で、受講生の学習意欲も高いせいだろうか。

　学系別集計【全体】においては、大学院と並んで、教育系や G30 の得点も相対的に高い印象だ。

　このアンケート結果を踏まえて、さらに授業改善に努力したい。

教員名： 老松　克博 村中　誠司	臨床教育学実験実習Ⅱ（心理演習）

コメント

⇒　授業アンケートへの回答ありがとうございました。授業の内容に高い関心を持っていただき，一定の知識が身についたとのフィードバックを受け，うれしく思います。一方で，授業の方法や資料の工夫や準備については課題が見えてきましたので，次年度に生かします。

　自由記述への回答もいただき，ありがとうございました。今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために様々な制限がある中で実施しましたが，その中で実施した検査の実施体験からわかる範囲で自己理解が促せたのならうれしく思います。一方で，もっと解釈をしっかりとしたいというご意見もいただいたので，次年度，より丁寧に進められるよう工夫します。

　コメントは以上です。受講，お疲れ様でした。

教員名：森　由香	人権教育論

コメント
⇒　回答者が 3 名なので、なんともいえません。
実施時期はいつだったのでしょうか。連絡の見落としがあったのであれば申し訳ありません。
15 回の講義中であれば受講生に協力してもらって、有効な回答が得られたと思います。

教員名：佐々木　淳	臨床心理学特講 I

コメント
⇒　初めての Zoom 授業であり、また心理教育相談室の運営状況から、授業内容を実感をもって理解をしてもらうのが難しい状況だったかもしれませんが、アンケートからはある程度の成果はあったものと考えました。今後も同様の形式を継続する可能性も念頭において準備をしていきたいと思っています。

教員名：森田　邦久	認知システム論

コメント
⇒　全体的に系平均の成績であった。今学期初めて講義する内容で、やや講義内容が整理されておらず、受講生にはわかりづらい面もあったかと思う。次回も別内容の講義になるが、もう少し時間をかけて準備したい。

教員名：足立　浩平	行動統計科学演習 I・行動統計科学特定演習 I・心理学統計法・情報処理演習 II

コメント
⇒　担当科目全体についてまとめて，次にコメントします．数理科学系の分野は一見難解で，すべて理解するのは不可能なので，理解できなくてもよい部分を見出す嗅覚を持つことが大切です．

教員名：川端　亮	大学マネジメント論特講 I

コメント
⇒　評価はほぼ平均と同じであった。
　コメントに「ディスカッションを多めにとりいれて欲しい」とあった。今回はコロナのため、当初の数回が予定通りに行うことができず、その分ディスカッションの時間を取ることができなかった。次回からはディスカッションの時間を取るようにしたいと考えている。

教員名：野坂　祐子	教育・学校心理学・臨床教育学実験実習 II（心理演習）

コメント
⇒「教育・学校心理学」
　全体的に、関心をもって受講いただけてよかったです。オンラインでしたが、毎回提出いただいたコメントが充実していたので、それを用いて授業ができたので私も助かりました。個人の予習復習と授業内容の難易度については評価がわかれており、「少ない／易しい」という人もいれば「多い／難しい」という人もいて、バックグラウンドの違いなどによっても、授業の体験は異なったのだと思います。できるだけこちらでも工夫しますが、各自で補ってもらうことを期待します。

⇒「臨床教育学実験実習 II（心理演習）」
　自習時間を非常に長くとられており、みなさん、頑張って取り組まれたと思います！

教員名： MURRAY DAVID PATRICK	英語による国際コミュニケーション I-A・英語による国際コミュニケーション II-A

コメント
⇒　Thank you to all students who joined the course.
Your active participation should allow you to reap the benefits of improved communication in English not just for yourself but for all of the other participants in the class.
Everyone's overall level of English proficiency was generally very impressive.
I enjoyed the experience and I hope you did too.
Dave

教員名： 鹿子木　康弘	比較発達心理学特講 I

コメント
⇒　私は講義でも受け身になるのではなく能動的に考えることを学生にしてほしいので、そのような機会をできるだけ設けるようにしている。しかし、今回の講義はリモートであったため、最初はどの程度インタラクティブにできるか手探り状態であった。幸い参加者が少人数であったため、学生の質問に時間をかけて答えたり、ディスカッションする時間をかなり設けることができた。そこを評価するコメントがあったので、とても喜ばしく、今後もこのスタイルでやっていこうと思う。

教員名：管生　聖子	①心理学的支援法　②臨床心理学研究法特講

①コメント
⇒アンケートへのご協力ありがとうございました。
　メディア授業となり、急な変更などに皆さんよくご対応下さり授業についていらしたと思っています。
ご協力下さった方の回答結果からは、難易度や内容など適切であったと思います。予習・復習の時間が少なかったようなので、多くの方が自主的にそのような時間をとりたくなるような工夫を今後考えたいと思います。

②コメント
⇒アンケートへのご協力ありがとうございました。
　概念やバックグラウンドなど難解な部分もありましたが、予習を含め準備を頑張ってくださったと感じています。TEM の基礎をでしたので、関心がある方は本講義をもとに発展編へとつなげ分析手法として実際使っていってくださるとよいと思います。

教員名：青野　正二	環境行動学演習 I

コメント
⇒　前期に担当した演習の授業（オンラインで実施）では、すでに講義で学習済みの内容も含めて、適宜例題や実習などを通じて課題に取り組むことで、理解を深めることを目指した。また、専門書や論文などの文献を理解し、問題点を見出せるよう文献講読を実施するにあたり、受講生には準備や意見交換・議論に、ある程度の期間を与えるようにした。その結果、不明な点があれば自ら調べて議論に持ち込み、自主的に課題を見いだして解決していこうとする姿勢がみられた。これは、従来の対面での授業と比べて十分な時間があり、密度の高い学習ができたためと思われる。

教員名： 北山　夕華	Special Topic in Human Sciences IV (Identity, Nationality and Citizenship)・ 生涯教育学
コメント ⇒　予定外にオンライン授業になったこともあり、学期途中に自分で作成したアンケートを実施して理解度や資料の量等については学生のフィードバックを参考にするようにしていました。 授業が全て終わってからのフィードバックはこちらだけなのでありがたいです。特に、「この授業をより良くするための意見や要望」は、具体的な内容があり参考になりました。 ただ、回答率が低く（一応、授業中に呼びかけはしたのですが…）、全体の傾向を掴むという点では参考にしづらいのが少し残念です。	

教員名：吉岡　洋子	比較福祉論Ⅱ
コメント ⇒　メディア授業は初めてで、学期を通じて模索が続いた。講義かつ今回はオンデマンド方式だったため、学生が見通しをもち安心して参加できるよう、シラバスとの対応を従来以上に意識したが、その結果は学生からの評価にも表れていたと思われる。また、CLE でのフィードバック等の努力は重ねたが、対面と異なり受講生の反応や思いが捉え難いため、一方的な講義になっていないか懸念していたが、アンケートからはひとまず大きな問題は見当たらない点はほっとしている。ただ、授業内でＱＲコードも示したが、アンケート回答者数が多くはなかったことは残念で、もっと詳しく受講生の反応や意見を知り改善に活かしたかったと思う。今後は回答してもらえるための働きかけも工夫したいと考える。	

教員名：平井　啓	健康・医療心理学・人体の構造と機能及び疾病・精神疾患とその治療
コメント ⇒　健康・医療心理学は、ZOOM でのオンライン授業を行い、CLE において毎回のコメント提出とそれに対するフィードバックを行った。回数を追う毎にフィードバックに書かれる内容のレベルが向上し、多くの学生が熱心に学習していることが伺えた。開始時は、オンライン機器や CLE の操作などで不具合が生じたが、徐々に操作関係のトラブルは減ってきた。来季はトラブルを減らし安定した授業運営を行いたい。 人体の構造と機能及び゛疾病，精神疾患とその治療について保健学科の授業との合併授業であり、メディア授業となったことで、CLE 上での資料配布と課題提出を中心とする授業となってしまった。来季は、対面での授業もしくは、オンライン視聴が可能な授業となるように保健学科と調整を行いたい。	

教員名：辻　大介	人間科学概論
コメント ⇒　コロナ禍のために急遽メディア授業にせざるを得なくなり、担当教員としても暗中模索・試行錯誤が続いた授業でしたが、「全体として良い授業だった」かは全体平均を上まわって、8 割近くの皆さんから「非常に良かった」という評価をもらい、ホッとしています。他の項目評価もおおむね良好で、うれしく思います。担当者としてもがんばった甲斐がありました。ただ、対面授業への要望に応えられなかった点は、残念です。この講義の場合、学生どうしのディスカッションを取り入れることを重視した科目なので、対面に切り替えるとディスカッションを抑制せざるをえず、感染リスクを避けるためには他の科目以上にメディア授業で続けざるをえない面がありました。来年度は対面授業で実施できる状況になっていることを、担当教員としても祈っています。	